

東日本大震災 あす1ヵ月

被災地派遣 延べ1400人に

東日本大震災発生から11日で1ヵ月。被災地復興に向け、県内からは医療・福祉関係機関や警察、自衛隊などが延べ人員計約1400人の支援隊を派遣した。仮設住宅の入居が始まるなど現地の状況やニーズは刻々と変化。ライフライン復旧が急がれるとともに、避難者支援の在り方に工夫が求められている。(秋山昌三)

【医療支援】

「災害派遣医療チーム(DMAT)」は大震災発生直後に被災地入りし、救命医療を担当した。国際医療ポランティアAMDA(本部・岡山市)や県内災害拠点病院による医療救護班は宮城、岩手両県の避難所で診療を継続。日数がたつにつれ、診療を再開する医院も出てきたといひ、県医療推進課は「患者の引き継ぎを考えるべき

名称	延べ人数	拠点	期間	活動内容
県警広域緊急援助隊	96人	福島県いわき市、宮城県東松島市など	3/11~4/5	避難誘導、交通規制
中国管区機動隊県部隊	131人	岩手県盛岡市、宮城県石巻市	3/16~22 3/29~4/8	不明者捜索
県警機動隊	22人	岩手県九戸郡	3/24~31	不明者捜索
県警地域警察特別派遣部隊	8人	福島県郡山市、相馬市など	4/5~15	パトロール
陸上自衛隊三軒屋駐屯地部隊	85人	岩手県宮古市、山田町	3/12~	がれき撤去、不明者捜索
陸上自衛隊日本原駐屯地部隊	280人	福島県新地町	3/15~	不明者捜索、物資輸送
緊急消防援助隊	303人	宮城県多賀城市、塩釜市、七ヶ浜町など	3/12~21	搬送・救助、火災処理
県消防防災ヘリ「きび」	28人	宮城県石巻市、塩釜市、気仙沼市など	3/12~31	不明者捜索、人員・物資搬送
日赤県支部救護班	55人	福島県郡山市、岩手県盛岡市など	3/11~4/1	救命医療、心のケア
DMAT	27人	岩手県花巻市、福島県山形市	3/11~14	救命医療
AMDA	121人	岩手県大槌町、宮城県南三陸町	3/12~	避難者診療
県医師会	25人	宮城県石巻市	3/12~	避難者診療
岡山山大医療支援チーム	51人	岩手県大船渡市	3/16~	救急医療
県心のケアチーム	23人	宮城県南三陸町、登米市	3/16~	心のケア
県保健師チーム	33人	岩手県大船渡市、福島県会津坂下町	3/18~4/30	健康相談、衛生管理
県内災害拠点病院による医療救護班	49人	岩手県大船渡市	3/24~4/30	避難者診療
日赤県支部登録市民ボランティア	4人	宮城県多賀城、気仙沼市など	3/30~4/5	家財道具の搬出、支援物資の仕分けなど
県職員支援隊	26人	福島県喜多方市、宮城県仙台市など	3/28~	避難所運営、災害対策本部の業務支援
岡山ガス	22人	宮城県仙台市	3/28~	復旧作業

避難者ケア工夫必要

県内医療機関や警察

時期」とす。AMDAは8日から、超音波装置や心電計を備えたトレーラーハウスで、高血圧や糖尿病など慢性疾患の検査を実施。地元医師の診療拠点となる仮設診療所も開設予定だ。石巻赤十字病院(宮城県石巻市)を拠点に活動する県医師会は、介護職員が足りないなど職種に偏りが生じていると指摘。「ニーズをマッチングする人材が不可欠」と訴える。

宮城県に派遣された精神科医師でつくる県心のケアチーム。統合失調症など精神疾患を持つ患者を診察し、持ち込んだ向精神薬や睡眠薬を投与しているが、「長らく避難所生活で症状が悪化し、被災者同士でトラブルになることもある」と明かす。避難所の人々は疲弊しているという。

岩手県に入った県保健師チームをまとめる県保健福祉課によると、高齢者の避難生活が長期化するれば「寝たきりになる恐れがある」とし「仮設住宅などへの移転を早急に進めなければ」。一方で「皆る。

か一錠だからこそ変更へいらねえ。面もあり難しい」とも話した。

陸上自衛隊三軒屋駐屯地(岡山市北区宿)の部隊は、津波で壊滅的な被害を受けた岩手県山田町で道路が通行できるようのがれきを撤去し、量が甚大で全て撤去するにはどれほど時間がかかるか。36万世帯で都市ガス供給が止まった仙台市には、岡山ガス(岡山市中区桜橋)が社員22人を派遣。日本ガス協会の災害復旧隊として作業を進め、7日現在の復旧率は58%。同社は「余震を警戒しながらの作業で思い通りにいかない」とこぼす。

壊れた家財道具の搬出や支援物資の仕分けに当たる市民ボランティアは、日赤県支部(岡山市北区丸の内)に登録した4人が宮城県へ。29日には約40人が出発する。また、多発する空き巣や事務所荒らしなどに対応し、治安を維持するため県警の地域警察特別派遣部隊8人が福島県に派遣されている。



被災地で活動する岡山の支援隊やチーム (9日現在)